

## 秋田県小坂町まちづくり計画 その2 旧十和田小中学校再編計画

Kosaka town Akita prefecture planning

Part2 Towada primary and secondary school restructuring plan

○宮嶋悠輔<sup>1</sup>,重田秀之<sup>1</sup>, 金井亮介<sup>2</sup>, 黄起範<sup>2</sup>, 山本淳樹<sup>2</sup>, 渡辺真理恵<sup>2</sup>,  
ルネンコバ アナスタシア<sup>2</sup>, 三枝晃<sup>2</sup>, 笹川雄基<sup>2</sup>, 佐藤信治<sup>3</sup>

\*Yusuke Miyajima<sup>1</sup>, Hideyuki Shigeta<sup>1</sup>, Ryosuke Kanai<sup>2</sup>, Rhino Hwang<sup>2</sup>, Junki Yamamoto<sup>2</sup>, Marie Watanabe<sup>2</sup>,  
Lunenkova Anastasia<sup>2</sup>, Akira Saigusa<sup>2</sup>, Yuuki Sasagawa<sup>2</sup>, Shinji Sato<sup>3</sup>

Lake Towada is a lake boasting one of the most beautiful natural beauties in Japan. but the town around the beautiful lake has been exhausted by the "decrease in tourists." In recent years, foreigners Tourists are paying attention and in order to accept such foreign tourists it is necessary to have a facility to become a "base" for foreigners to stay. Focusing on the school at Kosaka-machi in Akita Prefecture, it is to fix it as a base facility of green tourism to capture foreign tourists visiting Towada Lake

### 1. はじめに

十和田湖は秋田県と青森県にまたがる日本有数の自然美を誇る湖である (figure1). 青森県側は多くの観光地が整備されているが秋田県小坂町側は観光地が少なくポテンシャルを生かし切れていないのが現状である。

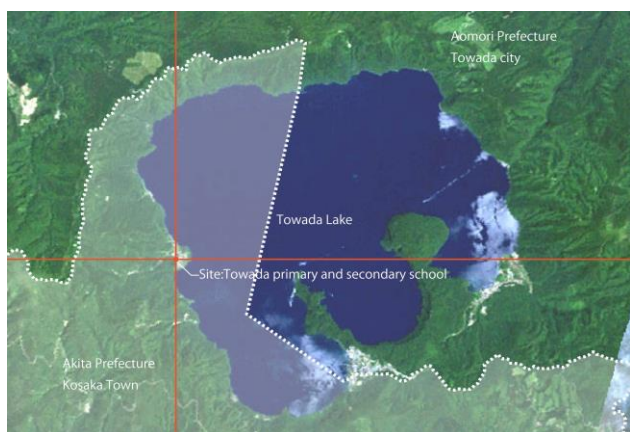


Figure1 Towada Lake

また日本では外国人観光客が増加の一途を辿っており、インバウンドブームに沸き立っている。これを活用することで、十和田湖の再起が望めるとされる。東北地方を訪れる外国人宿泊者数は東日本大震災を境に大幅に減少したが、その後の全国的なインバウンドの増加に伴い年々増加している。外国人観光客の体験したいことの第4位に自然・景勝地観光が入っており、日本の自然が注目されていることがわかる (Figure 2)。そこで秋田県小坂町側にある廃校に着目し、それを十和田湖へ訪れる外国人観光客を取り込むためのグリーンツーリズムの拠点施設へと改修するものである。

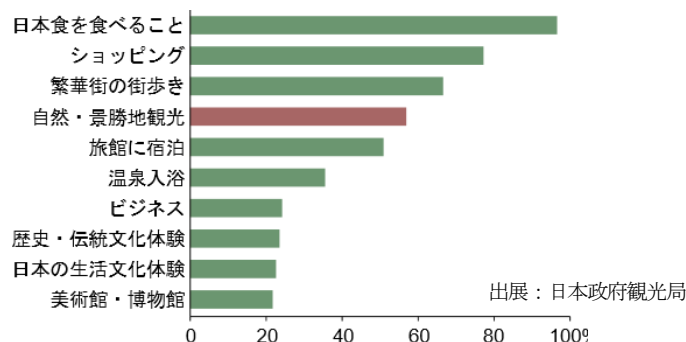


Figure2 Popular items of foreign tourists

### 2. 計画背景

十和田湖周辺を訪れる観光客の宿泊割合は2割にとどまっており、十和田湖の活性化を図るためには宿泊者の割合を高める必要がある (Figure 3)。加えて、外国人観光客を受け入れるためには、外国人が滞在するための拠点となるための施設が必要である。秋田側に拠点を設けることで、十和田湖全体にまんべんなく拠点を配置することになり、十和田湖全体の活性化にもつながると考える。

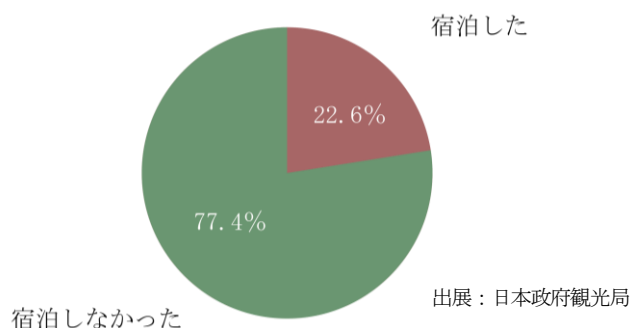


Figure3 Tourist accommodation rate

### 3. 計画敷地

敷地は、青森県の対岸にある大川岱地区とする。大川岱地区にある地域の子供12人のために秋田杉300本を

1：日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.

2：日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.

3：日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.

使用して作られた十和田小中学校が廃校として残っている。300本の秋田杉が使われており非常にぬくもりを感じられる空間となっており、この廃校となった学校を旅行者のための観光拠点施設へと改修する。



Figure4 Towada primary and middle school

#### 4. 建築計画

観光拠点化をするに当たり、近年注目されているグリーンツーリズムの概念に着目した。十和田湖の湖畔で出来る要素である、工芸、食、旅、体験、湖を取り入れたグリーンツーリズムの拠点とし、外国人観光客の誘致を図る (Figure5)。



Figure5 Towada Lake Green Tourism

廃校前の十和田小中学校のゾーニングを基に計画を行っていく。十和田小中学校は屋内の教室だけでなく、十和田湖の雄大な自然まで巻き込んだ、学びの場として機能しており、湖まで一体としたグリーンツーリズムの拠点とする (Figure 6)。



Figure6 Master plan

旧小中学校部分については、教室部分は体験教室へ体育館は売店へと改修し日帰り客も取り込めるように計画する。(Figure 7)



Figure7 Experience class

屋外の施設はグランピングやコテージを取り入れた宿泊型の自然体験の場として機能する。こういった十和田湖の自然をより深く体験できる場を計画することで、外国人観光客を誘致し十和田湖地域を活性化していく (Figure 9)。



Figure8 Pier classroom

#### [参考文献]

[1]小坂町観光振興計画

<http://www.town.kosaka.akita.jp/event/image/6784download.pdf>

[2]日本政府観光局

<https://www.travelvoice.jp/20170117-81433>

[3]農林水産省

[http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/kyose\\_tairyu/k\\_gt/](http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/kyose_tairyu/k_gt/)